

平成 21 年度コミュニティ・スクール推進協議会 実践発表資料

(ふりがな)	(みきちょうりつ たなか しょうがっこう)								
学校名	三木町立田中小学校								
(ふりがな)	(きたぐん みきちょう おおあざ たなか)								
所在地	香川県木田郡三木町大字田中 4 6 2 0 番地 2								
電話番号	0 8 7 (8 9 8) 0 5 0 1			FAX番号	0 8 7 (8 4 0) 2 4 4 7				
学級数		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支	計
		1	1	1	1	1	1	1	7
児童・生徒数		1 8	2 7	2 9	1 9	2 4	1 6		1 3 3
	(特支)	0	0	1	0	0	0		1
教職員数	1 7 人	学校運営協議会を置く学校として指定された年月日				平成 1 9 年 4 月 1 日			
学校運営協議会の 委員数・構成	1 5 人	内 地域代表 9 人、保護者代表 2 人、教職員 3 人、 訳 大学教授等有識者 1 人							
	学校運営協議会代表者（会長等）： 地域代表								
その他	平成 1 8 ～ 2 0 年度に文部科学省コミュニティ・スクール推進事業の調査研究指定校となっている。								

(平成 21 年 7 月 1 0 日時点)

I 学校運営協議会設置までの経緯、設置後の改善状況

1. 「学校運営協議会を置く学校（コミュニティ・スクール）」指定前の状況

- 学習や学級の活動、学校行事に真剣に取り組もうとせず、学習規律の守れない児童が高学年に見られた。
- 各学年とも単学級で人間関係が固定されており、自分の思いを言葉で表現することが苦手な児童が多く、表現力の不足が課題であった。
- 学校外において、児童があいさつをしなくなった、声をかけたり叱ったりすることが難しくなったという地域の声が聞こえてきた。

2. 学校運営協議会の設置を決めた理由

- 上記 1 にあるような学校の様々な課題を解決するために、家庭や地域を巻き込んだ取り組みを行う必要性があった。
- 児童数の減少に伴い、小規模校として特色ある学校づくりを行う必要性があった。
- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律にあるように、学校運営協議会が学校運営に積極的に意見を述べることによって、地域の方々や保護者が学校教育活動に積極的に参加できるようなシステムを確立することが課題解決につながると考え、以前から町教育委員会から働きかけのあったコミュニティ・スクールを導入することとした。

3. 学校運営協議会の設置方針の決定後から設置までの課題とその対応状況

- 保護者、教職員共にコミュニティ・スクールを導入することで負担が増えるという意識が強かった。
 - ⇒ 教職員間や保護者を交えた会を頻繁に開き、コミュニティ・スクールの活動は本校の課題を解決していくために有効な活動であることを確認した。教職員と保護者、地域の方々が集まり、校区の子どもたちの課題について協議する中で保護者や地域の方々の子どもに対する課題や思いが共通していることを確認した。そこで、それぞれの立場からできることを模索した結果、効果的な取り組みとして「あいさつ運動」が提案され、まずはこれに取り組んだ。そして、成果が見えてきたことにより、教職員や保護者、地域の方々のコミュニティ・スクールに対する意識も変化しつつある。
- 保護者は学校行事等への参加に対して協力的であったが、学校への関心は高くなかった。
 - ⇒ 学校の実態を公開し、授業規律回復や学習支援のために保護者や地域の方々が日常的に学級に入ることになった。この取り組みにより、地域の方々や保護者は子どもたちの状況を知り、「どうにかしなければならぬ」という思いが高まり、学校教育に参画する意欲や意識も高まっていった。

4. 学校運営協議会が学校や教育委員会に対してこれまでに提案してきた主な意見等

【学校運営の基本的な方針に対するもの】

- 児童数の減少が案じられる中、コミュニティ・スクールとして、児童・保護者・地域の方々にとって魅力ある学校運営をすること。
- 学校運営協議会のもとに、「確かな学力部会」、「豊かな心部会」「健やかな体部会」を設け、それぞれの部会が学校行事やPTA活動と連携させながら活動を企画・運営していくこと。
- 学校運営協議会に関わる地域の方々や保護者を学校支援隊として登録し、学校を支援する人材を確保していくこと。
- 学校運営協議会の各部会や学校教育活動のPDCAサイクルを円滑に進めるために、学校運営協議会が各部会の取り組みを適正に評価をすること。

【学校運営に関する事項に対するもの】

- 単学級であるため、児童の人間関係が固定化しているため、豊かな体験を通して様々な人と積極的に関わる機会を持てるような活動を企画すること。
- コミュニティ・スクールの良さを生かして家庭と連携し、家庭での学習習慣の確立や学習意欲を喚起することにより、確かな学力を身につける取り組みを企画すること。
- 自分の健康について気をつけて生活したり、積極的に戸外での活動や外遊びに取り組むことができたりする児童を育てるために、保護者や地域の方々と児童と一緒にふれあいながらスポーツ等に楽しんだり、健康について学ぶ取り組みを企画すること。
- 学校運営協議会の三部会が体験活動等を企画・運営する中で、児童が活動する場を設けることを通して、児童の自主性を育てる活動を増やすこと。

【学校の職員の採用その他の任用に関する事項に対するもの】

- 特に具体的な意見は出されていない。

5. 学校運営協議会が提案した意見を踏まえた、学校や教育委員会の具体的な取組

【学校運営に関すること】

- コミュニティ・スクールの取組みが教職員、保護者、地域の方々それぞれにとって意義のあるものとなるために、新しい活動の取組みの企画・運営においては、保護者や地域の方々の意見を取り入れるだけでなく、中心的な役割も担っていただいた。
なお、これにより、取り組んだことに対する充実感や達成感を持つことができると同時に、学校の取組みが教職員や保護者、地域の方々の考えを反映したものになり、魅力ある学校運営が実現しつつある。
- P T Aの役員会や運営委員会においてコミュニティ・スクールについて意義や必要性等を協議した結果、P T Aとしても協力体制を作っていくことが決まった。そこで、学校運営協議会のもとに設けた「確かな学力部会」「豊かな心部会」「健やかな体部会」という各部会の活動と調整を図りながら、P T Aの「広報部」と「文化部」、「校外補導部」と「保健体育部」が連携していけるよう、P T A規約を改正した。
- 人材確保のためのチラシを作成して田中地区全戸に配布するとともに、すでにコミュニティ・スクールの活動に関わっている人からの紹介により、P T AのO Bの方々をはじめとする有力な人材が得られた。
- 「確かな学力部会」「豊かな心部会」「健やかな体部会」の三部会の代表と教職員で組織する「評価部会」を設け、コミュニティ・スクールの実践はもちろん、教育活動全般について自己評価と学校関係者評価についての評価内容、評価方法、調査後の結果分析などを行い、次の実践活動に生かしている。

【教育活動に関すること】

- 「豊かな心部会」では、あいさつの啓発に努めている。あいさつ標語とあいさつキャラクターを募集し、選出された標語とキャラクターを啓発看板にして小学校区内に設置し、キャラクターはシールにして全児童や行事に参加した地域の方々に配布している。さらに、人と関わる体験活動として「土曜スクール、サマースクール、わくわくどきどき田中ウォーク」を企画・運営している。
- 「確かな学力部会」では、確かな学力を身につける取組みを行っている。学習サポーターの募集や「家族音読、にこにこ学習週間」に取り組んでいる。「家族音読、にこにこ学習週間」では、学校で児童に実施要領を説明し、定期的に記録用紙を配布している。また、アンケートにより実施状況の把握をし、その結果を学校運営協議会で協議し、今後の改善に生かしている。
- 「健やかな体部会」では、「親子体操・ミニハイキング」を春の運動会、秋の体験活動に組み入れて実施している。
- 学校では、児童が自分の意見を持って、それらを表現する力をつけるために、各行事を実施した後に必ず、自主的に感想を述べる機会を設けている。事後指導として、全校児童が感想文を書き、校内に掲示している。また、学年毎の行事についてわかりやすく他の学年に知らせる全校集会も実施している。

【教職員の任用に関すること】

- 特に具体的な取組みはなされていない。

6. 学校運営協議会の設置後に感じられる変化（成果）

【学校（教職員）側】

- 児童が大きく変容したことにより、コミュニティ・スクールの成果を実感し、積極的に推し進めるエネルギーとなった。
- 部会での話し合いを重ねる中で、地域の方々や保護者の児童に対する思いや願いが体感的に理解できてきた。また、保護者や地域の方々とのつながりが強くなり、信頼関係やお互いを理解する気持ちが増し、本音で話ができつつある。
- コミュニティ・スクールとしての活動の企画・運営のために、地域の方々や保護者と協議する際のコーディネーターとしての調整能力が育っている。保護者や地域の方々の意見を尊重しながら、学校のねらいに照らし合わせて内容を検討する必要があること、学校が計画している学校行事等とコミュニティ・スクールの活動を関連づけたり、統合させたりすることを提案できる力が教職員に付いてきている。

【教育委員会側】

- 地域から「子どもが変わった、よくなった。」との声が届き、コミュニティ・スクールの効果を教育委員会も町内外に発信している。
- コミュニティ・スクールとしての活動を支援するために、「コミュニティ・スクールだより」発行の経費、コミュニティ・スクール先進地視察の経費、「研究のまとめ」作成の経費等について予算措置を行っている。

【園児・児童・生徒側】

- 地域の方々にあいさつするだけでなく、親しく話しかけるようになっている。
- 保護者や学習サポーターが普段の学習支援や「わくわくどきどき田中ウォーク」等の体験活動に参加することに慣れ、様々な人との関わりを持つことで、感謝の気持ちが育ちつつある。
- 体験活動等をした後には必ず感想を述べたり感想文を書いたりするので、表現する力が育ちつつある。
- コミュニティ・スクールの取り組みを通して、地域の良さを知ることによって地域に住んでいることに愛着心を持てるようになり、自尊感情が育ちつつある。

【保護者側】

- コミュニティ・スクールの活動を通じて、あいさつをよくするようになった、人の話を真剣に聞くようになった等、子どもの変容がはっきりと体感でき、各行事に参加する保護者の参加率も高くなっている。
- 各部の活動に企画から関わることで、学校や児童の課題を共有でき、より学校に協力できる体制ができつつある。
- 学校から情報が公開され、意見交換が頻繁に行われることで、児童の実態が明らかになるとともに、具体的な対策や取り組みを協議することを通して、家庭教育の大切さが啓発され、家庭の教育力が向上してきている。

【地域側】

- 児童との関わりを通して学校に対して良い印象をもって協力してくれる方々が増えつつある。
- コミュニティ・スクールの取り組みに参画することで、地域で子どもと関わることに充実感を感じ、次の活動に期待している方が増えている。

7. 学校運営協議会の設置後に抱えている課題

- 学校運営協議会が提案した教育活動を支援する人材が不足しているため、人材をさらに増やしていく工夫が必要である。
- 今後、学校運営協議会設置当初の教職員が異動したり、中心となって活動してきた保護者が交代したりする時のために、コミュニティ・スクールの運営を継続しやすくするシステム化が必要である。
- 各部会の活動が過多にならないよう、活動を精選していくことが必要である。
また、教職員や一部の保護者に負担がかからないよう、活動の全体的な見直しが必要である。

8. 上記7の課題の解決に向けた今後の取組予定

- 人材を校区内に限らず、さらに広く求めていく。
- 教職員や保護者等、各部会に所属している人が交代しても、充実した活動が継続可能なシステム化をめざす。
- 児童の実態をふまえて活動の重点化と精選を図り、活動内容を充実させる。

II 学校運営協議会の実際の運営状況等

1. 学校運営協議会の運営状況

(平成20年度実績：年7回開催)

回	年月日	議 題 等
1	H20. 5. 11	田中小学校教育目標・基本方針及び教育活動について コミュニティ・スクールの取り組みについて
①	H20. 5. 7	各部署で年間計画を作成
②	H20. 6. 4	「評価部会」は評価の視点を検討。「保護者学級」のアンケートを実施
③	H20. 7. 2	「確かな学力部会」は学習サポーターの募集や家族音読、にこにこ学習週間の実施方法について協議 「豊かな心部会」はサマースクールについて協議。 「健やかな体部会」は長期休業中の体力づくりについて協議。
2	H20. 7. 16	報告 学校教育活動、PTA活動、コミュニティ・スクール各部署の活動 協議 日本PTA全国研究大会提案について 各部署の今後の活動
④	H20. 9. 3	「確かな学力部会」は家族音読、にこにこ学習週間の実施の中間報告について 「豊かな心部会」はお話会や田中フェスティバルの計画について協議 「健やかな体部会」は公淵公園ミニハイキングの計画について協議
3	H20. 9. 24	報告 日本PTA全国研究大会、PTA行事、各部署から、体育館耐震工事、新学習指導要領について 協議 田中フェスティバルについて、各部署の今後の活動について
⑤	H20. 10. 8	評価部会はサマースクール、生活参観のアンケート結果を受けてそれらの分析
4	H20. 10. 17	協議 コミュニティ・スクール推進フォーラム発表について
⑥	H20. 11. 5	「確かな学力部会」は生活参観アンケート結果とにこにこ学習の実施状況について協議 「豊かな心部会」は田中フェスティバルにむけて協議 「健やかな体部会」は公淵ミニハイキングの準備
5	H20. 11. 19	報告 各部署の取り組み、学校教育活動、田中フェスティバル、コミュニティ・スクール各部署推進フォーラム 協議 コミュニティ・スクール活動の評価について、コミュニティ・スクール年間計画作成について
⑦	H20. 12. 10	評価部会はフェスティバルと生活参観アンケートの分析、保護者の学校評価の結果の分析
⑧	H21. 1. 13	三部会は今年度の成果と課題について協議
6	H21. 1. 23	報告 各部署の取り組み、学校教育活動、学校評価 協議 コミュニティ・スクール各部署年間計画について 学校評価について

⑨	H21. 2. 4	評価部会は学校評価の結果の分析と次年度の計画
⑩	H21. 3. 4	三部会は次年度の計画と次年度委員確認
7	H21. 3. 23	報告 各部会の取り組み、学校教育活動、学校評価 協議 次年度のコミュニティ・スクール、次年度の学校運営
<p>(補記)</p> <p>この他、学校運営協議会が入学式、運動会、保護者学級や生活参観等の学習参観、田中フェスティバル、卒業式に参加している。</p>		

2. 学校運営協議会に関する基本情報等

- 学校運営協議会を置く学校としての指定期間（年数）※規則上

2年

- 学校運営協議会の委員の任期（年数）※規則上

2年

- 学校運営協議会の委員の改選方法の工夫

改選時期をにらんで早期に（引き継ぎが遅滞なくできる時期までに）人材の確保に取りかかる。

- 学校運営協議会の議事内容の公開状況

学校のホームページ、コミュニティ・スクールだよりで各部会の活動内容や学校運営協議会の議事概要などを公開している。
--

3. 学校の教育活動に協力する仕組み（PTA、学校支援地域本部事業等）との連携状況

- コミュニティ・スクールの組織の中にPTAの各部を連携させている。（添付資料「コミュニティ・スクールの組織図」参照）
- PTAの各部と学校運営協議会の各部会の連携関係を明確にするためにPTAの規約にその旨を明記している。

4. 学校運営に対する意見を聞く他の仕組み（学校関係者評価、外部アンケート等）との連携状況

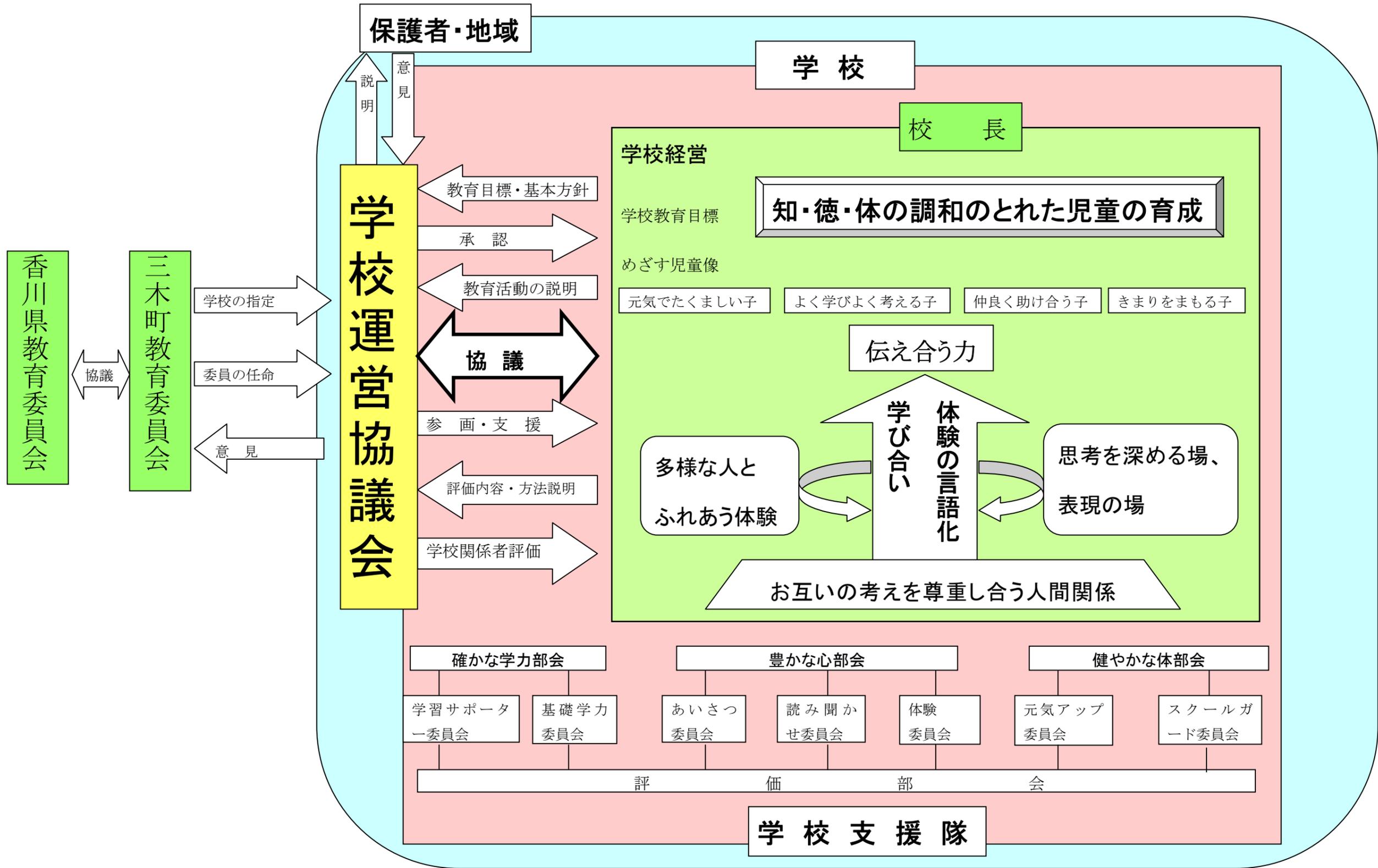
- 様々な活動を行った後には必ず参加者と企画・運営した方にアンケートを実施し、集計・分析して学校運営協議会で報告を行う。（添付資料：「アンケート例」参照）
- 上記のアンケート等を分析して整理する部（評価部会）を設けている。

5. その他

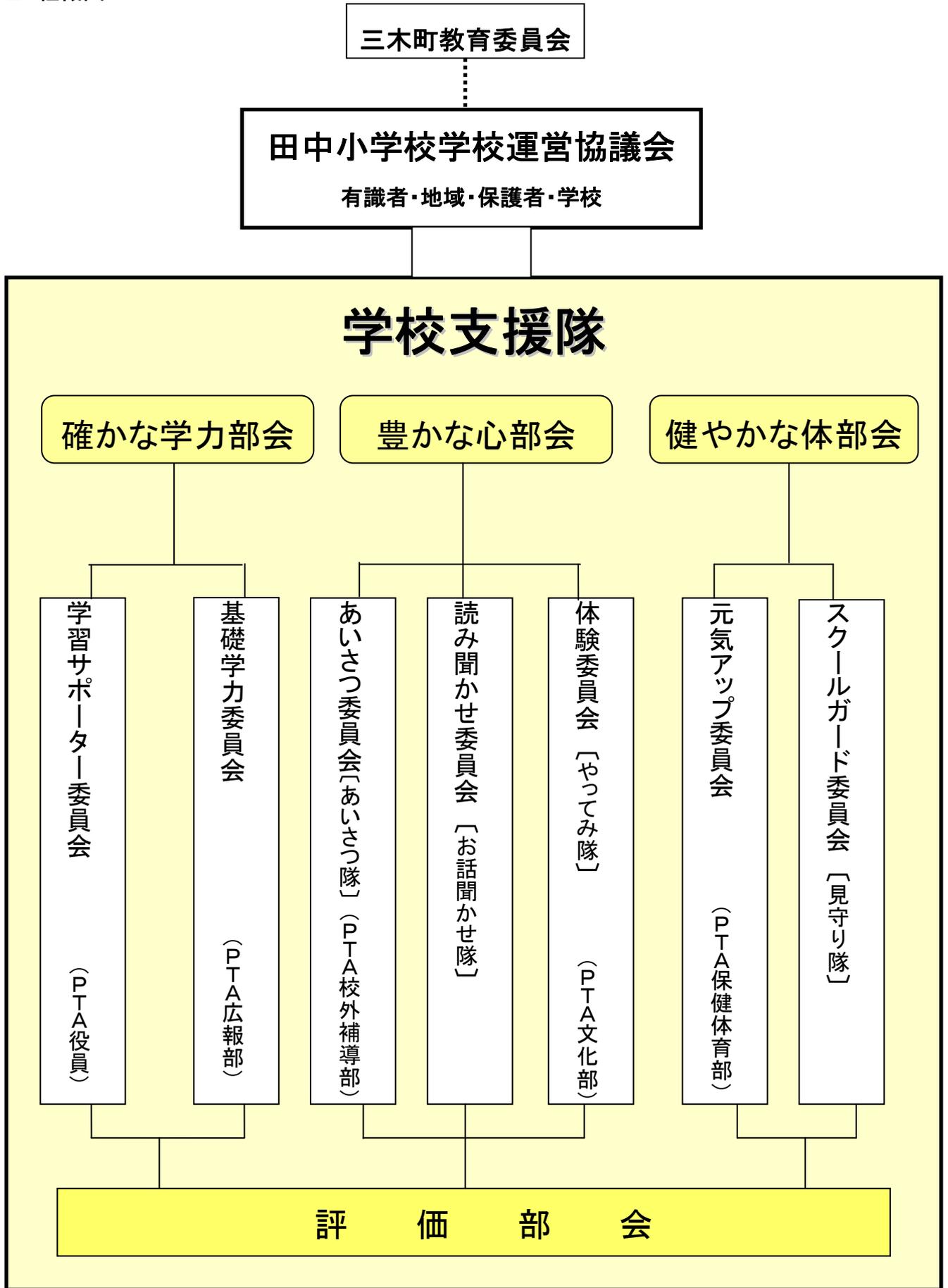
(添付資料)

- 1 コミュニティ・スクール全体構想図
- 2 コミュニティ・スクールの組織図
- 3 コミュニティだより1号
- 4 アンケート例

地域・家庭・学校が共に協働するコミュニティ・スクールの創造



2 組織図



田中小学校学校運営協議会

コミュニティ・スクールだより

1号

平成21年4月20日

田中小学校は、今年度もコミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域社会が一体となってよりよい教育の実現に取り組みます。学習サポーター募集（別紙）も行っていますので、ご協力よろしくお願ひします。

田中小学校コミュニティ・スクール 学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた児童の育成

こんな子どもに育てたい

よく学びよく考える子 元気でたくましい子 なかよく助け合う子 決まりを守る子

学校運営協議会 学校支援隊

確かな学力部会

(基礎学力委員会)

にこにこ学習 家族音読

(学習サポーター委員会)

サポーター募集



PTA広報部

豊かな心部会

(あいさつ委員会)

あいさつ運動 あいさつ標語募集

(読み聞かせ委員会)

おはなし会 図書館ボランティア
読書タイム読み聞かせ

(体験委員会)

サマースクール 土曜スクール
わくわくどきどき田中ウォーク



PTA文化部
校外補導部

健やかな体部会

(元気アップ委員会)

親子体操

(スクールガード委員会)

SOSお宅訪問

スクールガード交流活動



PTA保健体育部

評価部会